

ヘルメットで命を守りましょう!



令和5年4月1日から全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となります。自転車乗車中の交通事故で亡くなられた方のうち、**約6割が頭部に致命傷**を負っています。自転車に乗るときは大人も子どももヘルメットをかぶりましょう。市では、自転車ヘルメットの購入費を補助しています。



自転車安全利用五則



自転車を利用するときは守りましょう。

- 1 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメット着用

自転車ヘルメット購入補助金

対象者 申請日において
南国市民である者

補助金 ・ヘルメット1個につき
1,000円
・対象者1名につき1個

詳しくはお問い合わせください

新たな防災協定を締結しました!



市内に地震・風水害・その他の災害などが発生した場合に、ドローンを使った撮影捜索および調査などの支援協力を要請できる「ドローン協定」を、MUGENうみそらと締結しました。

MUGENうみそら代表の川崎暢一さんは本市出身で、協定式では「故郷のために災害時にも支援したい」との想いを語ってくれました。

MUGENうみそらでは、空中ドローンのみならず、水中ドローンの活用も行っており、様々な災害現場での活躍を期待しています。

■問い合わせ／危機管理課 ☎088-880-6575



コミュニティ助成事業(宝くじ助成金)を活用して、公民館を建設しました

西山部落会は、南国市西山で公民館活動、美化・防災活動などを行うことにより、良好な地域社会の維持・形成を目指して活動しています。今回、宝くじのコミュニティ助成事業を活用して公民館を新築したことで、地域の方々がより利用しやすくなりました。



立田自治会は、地域内での連携・協力によって地域課題の解決や活性化を目指し、明るく・住みよい地域づくりに取り組んでいます。今回、宝くじのコミュニティ助成事業を活用して公民館を新築したことで、地域の活性化と活動の継続が期待できます。



■問い合わせ／企画課企画調整係 ☎088-880-6553

地震対策はできていますか?



～家具の固定～

12年前の2011年3月11日に、東北地方の三陸沖を震源地とする M9.0の巨大地震が発生し、東北地方を中心とする東日本に死者19,747人、行方不明者2,556人の大きな被害をもたらしました。高知県でも同じ仕組みによるプレート境界型地震の南海トラフ地震が想定されています。私たちは、この東日本大震災からの教訓を学ばなくてはなりません。地震対策の一例として、家具の固定をご紹介します。



冷蔵庫に突っ張り棒



棚を金具で固定

補助制度を利用して
地震対策の第一歩として
家具をしっかり
固定してみませんか?



地震が発生したときには、「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策を講じておく必要があります。南国市では、家具の転倒を防止するため、家具固定の工事代金の補助を行っています。

申請書を受け付け後、市が委託した工事業者が日程調整をしてご自宅に伺い、家具にあった効果的な金具を選んで取り付けまで行います。

家具転倒予防金具等取付事業

対象者	南国市に在住している方 (南国市税および高知県税の滞納のない方に限ります。)
内容	家具が倒れないように金具などで固定します。
補助金額	上限3万2千円

申請方法

- 次の3点を危機管理課へご提出ください。
- 1 申請書(市のHPからダウンロードできます)
 - 2 同意書(市のHPからダウンロードできます)
 - 3 県税滞納証明書(県税事務所で取得できます)

十市防災音頭を流します

3月11日は東日本大震災の起こった日です。この日をご家庭での防災への取り組みのきっかけとするために、3月11日17時の防災行政無線の放送は特別放送として、十市小学校の児童(2020年度の4年生)が作成した「十市防災音頭」を流します。防災への取り組みをしっかりと進めましょう。

3. 備えちようこよう
防災リュックぜよ
食へ物と水は
家族が三日暮らせる分
避難場所で生活
ともに協力助け合い
油断はダメだよ
十市の防災音頭

2. 津波が来たら
自分の身を守ろう
迷わずに判断
高い所へ避難だ
津波は予想をはるかに
超えて超えてやってくる
油断はダメだよ
十市の防災音頭

1. 地震が来たら
自分で身を守ろう
ビミッドの形で
ヘルメットをかぶって
家族と相談「逃げる道」
「集まる場所」の確認
油断はダメだよ
十市の防災音頭

♪ 十市防災音頭

■問い合わせ／危機管理課 ☎088-880-6575